

教えて！先生

日本人形の衣裳に迫る

JITC

第13回
男性の装束
② 束帯松井幸生さん
株式会社善助商店社長
Matsui Yukio

金襴織物・裂地の製造卸商を営む。菅田屋勤兵衛から数えて13代目。京人形商工業協同組合副理事長。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員任命。翌年、伝統的工芸品産業の奨励賞を受賞した。

今日の先生



日本人形の衣裳にとことん迫る本企画。人形の衣裳に使われている文様や生地はもちろん、着せ方についても詳しく解説していきます。業界のスペシャリストを講師に迎え、衣裳の基礎から応用まで教えていただきます。知識の習得や再確認、セールストークにお役立てください！

前回に引き続き、男性の装束に焦点を当て、詳しく解説していきます。

——先日はお忙しいところ、御社にお邪魔させていただきました、ありがとうございます。生地を見せたいながら、いろいろと教えていただき、本当に勉強になりました。とりわけ、興味深かったのは、お蚕さんのお話です。男性装束の解説の次は、ぜひこちらについて詳しく教えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

松井さん 遠方より京都にお越しください、ありがとうございます。一度は正絹生地の数々を見ていただきたいと思っていたので、よい機会だったと思います。

——さて今回は、前回に引き続き、男性装束について解説していきます。連載タイトルは「日本人形の

衣裳」ですから、女雛だけではなく、男雛も説明しないといけませんね。取材でよく見るものの、未だに衣裳の名称や付属品などがしっかりと理解できていませんので、この機会にじっくり学びたいと思います。

男雛の衣裳

前回のおさらいになるが、男子の装束の種類は「束帯」「衣冠」「直衣」「狩衣」がある。これらをTPOに合わせて選び、着用していた。その生地にはさまざまな有職文様が用いられていた。

節句人形の男雛は束帯をモデルとして作られる。束帯は第一礼装であり、重要な儀式の際に用いられた。束帯には種類がある。

「縫腋の袍」と「闕腋の袍」の2種類に大別される。前者は公卿や文官が着るもので、後者は四位以下の武官が着用する。大きな違いは上着である袍のサイドを縫っているかどうかで、男雛が着用しているのは縫腋の袍である。

松井さん 人形となると、実際に人間が着用する時よりもさらに見栄えが必要となつてきますので、生地に使う文様や色など、メーカーさんは吟味されます。

◆束帯の構成と着装（順番）

- ①まず冠をつける。
- ②下着である小袖の上に単を着る
- ③大口袴と表袴を履く
- ④袴と下襲を重ねて着から裾を引く※下襲の上に半臂を着ることもあり
- ⑤④の上に袍を着る

◆束帯の各部名称

袍（うへのきぬ）……一番上に着る衣。色と文様は時代により変

⑥ここまですを石帯で束ねて留める

⑦足に襪を履く

⑧正式な履物である靴を履く

・持ち物

・檜扇と帖紙を懐中する

・笏を持つ

・腰に魚袋を下げる

松井さん 平緒は釧を吊るすための帯です。束帯の着用者によって結び方が異なり、さまざまな種類がありました。一つ言えるのは天皇の衣裳には平緒はないということです。それは釧を携行しないから。ほとんどの男雛に平緒がついているのは威厳を感じさせる、見栄えの良さからだと思えます。

◆束帯の各部名称

袍（うへのきぬ）……一番上に着る衣。色と文様は時代により変

男雛の背面



男雛の正面



男雛で解説



石帯

画像提供/株式会社吉徳(男雛)・株式会社善勤商店(石帯)

遷があるが、平安末期頃にはほぼ現在に伝わる位階や家による定めが固定した。縫腋の袍の構造は、見頃は反物二巾(長さ)。丸襟で首紙にあるとんぼを受緒にかけて留める唐風。縫腋袍は両サイドが縫ってあるため、裾に欄という生地を付け、欄には蟻先と呼ばれる張り出し部分を作る。これで歩行が楽になる。袍は平面に置いたとき、首紙が見えない側が前で、見える側が後ろ。前身頃に懐を作る余裕があるため、こうした無理のある形になった。折り目が胸のあたりに来ることになり、着用において難しいポイントとなる。

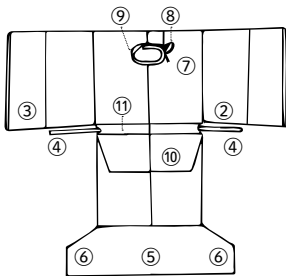
——折り目が出ると聞いて、皇室の装いが分かる文献を見ると本当に折り目がありました。お人形はないのですね……。

松井さん 本物の装束を忠実に再現すべき部分とそうでない部分があると私は思います。下襲の裾は本来、袍の下から出るものです。しかし男雛の画像のように袍の上に付けているお人形もあります。

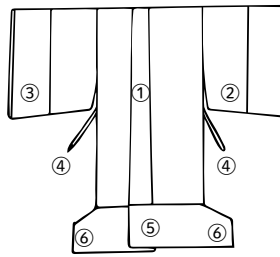
参考文献

- ・仙石宗久著『十二単のはなし——現代の皇室の装い』(株オクターブ、1995年)
- ・八條忠基著『有職装束大全』(株平凡社、2018年)
- ・八條忠基著『素晴らしい装束の世界』(株誠文堂新光社、2005年)
- ・鈴木敬三編『有職故実大辞典』(株吉川弘文館、1996年)

袍の後(背面)



袍の前(正面)



①のぼり(衤) ②奥袖 ③罎袖/端袖 ④小紐 ⑤欄 ⑥蟻先
⑦とんぼ ⑧受緒 ⑨首紙 ⑩格袋(はこえ) ⑪小格

お人形の見た目を優先して、そのようにしたのだと推測します。

——確かに……。左に袍の展開図を掲載します。これで先述した説明が少しは分かりやすくなると思います。まだ束帯の説明はしきれませんが、次号以降で続きを解説していきたいと思えます。

■縫腋袍(展開図)